

選考された交流事業リスト(2013年度)

一般財団法人 高円宮記念日韓交流基金

交流事業の名称	分野	受賞グループ (代表者)	活動地域 (活動期間)	活動内容	選考委員会・推薦者等の評価
韓国素明女子高校と北海道 羽幌高校及び羽幌町民との 国際交流事業	教育・文化	羽幌国際交流協会 (小寺 克彦 代表)	北海道羽幌町 韓国富川市 (14年) *最初の訪韓 からは40年	学校間の相互交流で、学校訪問・授業参加に加え、ホームステイと地域交流によって、生活文化を体験する。羽幌国際交流協会が中心となった活動で、郷土芸能の披露や、料理教室、離島・施設訪問等も実施。	交通の便の悪い北海道北西部にあって人口減少に悩む旧炭鉱町が、いち早く韓国との交流を始め、ここ10数年は地元住民と学校が一体となって、韓国の学生を長期間(8日間)受け入れ交流している。
韓日青少年及び大学生教育交流	教育・文化	趙 基興 氏(個人) (韓国・平澤大學校 総長)	韓国全域 日本全域 (45年)	1971年に亜細亜青年協会で韓日青少年交流を始め、以後45年間に亘って日韓の教育文化交流を継続している。1980年には平澤大學校を創立し、日本全体を学ぶ「日本学科」を設置して多くの学生を送り出している。	45年の長期に亘り活動を続け、大学では語学や文学のみならず、歴史・経済・文化等を含めた日本全体について教え、知日派の青少年を輩出してきた。日本の各大学との多彩な交流も評価。
日韓親善少年柔道交流	スポーツ	栃木県日韓親善協会 (青木 勲 会長)	栃木県 韓国高陽市 (26年)	小中高生の柔道交流大会を開催し、スポーツ交流とホームステイを含めて両国の友好親善を図り26年目を迎える。毎回約50人の生徒が交流し、柔道の試合のみならず、地元の伝統行事や歴史文化にも接する機会を提供。	栃木県の日韓親善協会が中心になって先代からの交流を受け継ぎ、日韓の平和的交流と、青少年の健全育成・人格形成と、国際感覚の涵養に貢献している。3回目の推薦であることにも熱意を感じる。
日韓交流若手指導者育成事業	福祉 (レジャー・ スポーツ)	車椅子レクダンス普及会 (黒木 実馬 理事長)	日本全域 韓国全域 (23年)	福祉レジャー・スポーツが普及していない韓国で、ボランティアで車椅子ダンスの指導者を育成し、障害者の支援を続けて来た。結果として多くの学生インストラクターや若手指導者が育ち、青少年を含めた交流の場となっている。	まず指導者を育成するという着眼点の良さと、多くの協力者を育てることによって、より広く障害者の交流機会を提供してきた。自衛官時代からの黒木氏個人の社会奉仕精神も高く評価された。

高円宮賞を受賞した交流事業リスト(2012年12月12日)

一般財団法人 高円宮記念日韓交流基金

交流事業の名称	分野	受賞グループ (代表者)	活動地域 (活動期間)	活動内容	推薦者等の評価
日韓親善交歓演奏会	文化	大垣少年少女合唱団 (早崎 桂子 団長)	大垣市 韓国昌原市 (13年)	大垣市と韓国昌原市のフレンドリーシティ (友情都市)事業の一環としてスタートし、 隔年に相互訪問して、合同演奏会を開 催すると共に、ホームステイによって 両国の文化と歴史を体験する。	交歓演奏会で両国民に愛される歌 を多くの市民に披露し、合唱を軸に した友好親善を続けてきた。純粋な 民間交流であり、併せて、子ども達 に対する指導方針も優れている。
韓日高校生の教育交流	教育、文化	韓国YFU(国際学生交流財団) (辛 定夏 会長)	日本及び 世界各国 (23年)	長期(1年間)・短期の高校生交換留学 事業で、一般家庭にホームステイしな がら高校に通学し、生活体験をする。 異文化を理解し、草の根外交官として 日韓友好の懸け橋となる人材を育成。	国際教育交流のための民間団体で 韓国YFUを裸一巻で立ち上げて、 創立以来23年間、高い視点で世界 の青少年を派遣・受入れを行い、特 に日本との交流には力を注いできた。
韓日伝統文化交流事業	文化	車 玉秀 女史 (個人)	韓国全域 徳島県三好市 徳島県徳島市 東京都他 (30年)	舞踊家として長期に亘って日本各地と の文化交流を行い、韓国の伝統芸能 を児童から大人に至るまで紹介・指導 し、日韓民族芸能交流イベントにも数多 く参加し、地域住民とも積極的に交流。	大学教授として、又舞踊家として民族 舞踊を研鑽し、伝統芸能の指導を通 じて児童や学生の健全育成に貢献 してきた。交流に当たっては純粋な ボランティア精神から大半を自費で対応。
日韓視覚障害者 青少年交流プログラム	スポーツ 文化	熊本ワイズメンズクラブ (那須 浩一 会長)	熊本県 韓国大邱市 (30年)	熊本県立盲学校と韓国大邱市の盲学校 とのスポーツ・文化交流で、当初の野球 バレーボール・柔道等のスポーツ交流に 加え、近年は音楽会の開催、マッサージ 技術交流も実施して、視覚障害者を支援。	蓄積した肢体障害者ケアのノウハウ を活用して、30年の長期に亘って多 くの困難を乗り越えて視覚障害者の 交流活動を支援してきた。社会的弱 者に対する人道精神と継続性を評価。

受賞事業リスト(2011年12月13日)

一般財団法人 高円宮記念日韓交流基金

	交流事業の名称	分野	受賞グループ (代表者)	活動地域 (活動期間)	活動内容	推薦者等の評価
高円宮賞	日本一大楠どんと秋まつり	文化	日本一大楠どんと秋まつり 実行委員会 (実行委員長 田中 久嗣)	鹿児島県 始良市蒲生町 (17年)	地元シンボルである日本一の大楠に 因んで開催される秋まつりに韓国の学生 を招待して、楽器演奏やホームステイで 交流を図る。日本からも韓国に小学生等 を「ふれあい旅」として派遣している。	地元住民が一体となった活動で、 それぞれの文化を市民レベルで 理解し、地域に根を下ろした地道な 活動が定着している。ボランティアに 支えられた草の根交流の典型である。
高円宮賞	日韓学生相互理解交流事業 (アジア・カレッジ)	教育、文化	慶南青年カレッジ 実行委員会 (実行委員長 中野 智昭)	山口、広島 慶尚南道 釜山、蔚山、慶州 (20年)	山口県と韓国の慶尚南道の姉妹縁組を 契機に、両地域の大学生が相互に訪問し、 体験学習・討論会・伝統文化体験・平和 体験等のフィールドワーク・清掃等の環境 活動など、多彩な活動を行っている。	学生を中心とする参加者が企画から 運営までを手掛ける自主的・主体的 な活動であり、その取り組みは非常 に充実している。事前準備に十分な時 間をかけて練り上げたプログラムである。
高円宮賞	姉妹校ホームステイ団 交換交流事業	教育、文化	熊本中央高等学校 (校長 工藤 勇参)	熊本県 韓国論山 (28年)	熊本県と韓国忠清南道の姉妹関係を 背景に、熊本中央高校と論山女子商業 高校とのホームステイを中心とした交流 活動で、修学旅行時も論山市を訪問し て交流会を開催し、文化祭に参加する。	20年以上に亘り姉妹校との交流活動 を継続し、ホームステイ等により生活・ 習慣・文化に触れて相互理解を高め ている。様々な趣向の交流会によって 家庭的な交流関係を築きあげている。
高円宮賞	日韓両国学校間 相互交流事業	教育、文化 スポーツ	韓国 嚴 圭白 氏(個人)	韓国ソウル市 日本各地 (37年)	祖父が設立した学校法人・養正義塾を中 心に、細田学園・天理高校・昂学園高校 他と教育・文化・スポーツ全般に及ぶ交流 を長期に亘って積極的に推進している。 多彩な交流で異文化への接触機会を提供。	個人として校長として、長期に亘り 日本各地の高校との交流を継続展開 し、活動の範囲を発展・拡大してきた。 日韓の青少年交流の草分けとして多 くの人材を育成し、相互理解を推進。
奨励賞	日韓伝統文化交流事業	文化	八幡獅子太鼓保存会 (会長 杉本 孝司)	徳島県三好市 韓国晋州市他 (10年)	徳島県三好市の八幡獅子太鼓保存会と 韓国慶尚南道の伝統民俗保存会との交 流で、相互に訪問してそれぞれの伝統文化 を披露する。幼時から大人まで含めた交流 を山間部の限界集落で展開している。	完全な民間交流で、伝統文化の継承 を目指して密接な交流を継続している。 人口が減少する中で、幼時から大人 まで参加する地域密着型の活動で、 厳しい環境を乗り越えてやっている。

受賞事業リスト(2010年12月14日)

一般財団法人 高円宮記念日韓交流基金

番号	交流事業の名称	分野	受賞グループ (代表者)	活動地域 (活動期間)	活動内容	推薦者等の評価
1	日韓親善少年サッカー 交流事業	スポーツ	北海道旭川地区サッカー協会 (太田 英司 会長)	旭川市 韓国水原市 (20年)	韓国の姉妹都市水原市とのサッカー 交流で、小中高生の交流試合を交互 に開催し、今までに約2,200名が参加。 ホームステイも併せ実施して友好を 深めると共に、伝統行事にも参加。	20年間途絶えることなく実施し、 交流人数も非常に多い。 行政主導でない一般市民による 草の根交流で、人と人のつながり を軸に交流の輪を広げている。
2	韓国「吐月初等学校」との 国際交流教育	教育、文化	福岡県田川市立後藤寺小学 (中野 高保 校長)	福岡県田川市 韓国昌原市 (13年)	韓国「吐月初等学校」との教育・文化 交流で、教員・保護者を含めて13年間 継続。共同授業による異文化理解と、 歌・ダンス・工作等の作品交換や体験 学習を通じて国際理解と友好を維持。	授業交流を通じて、両国の伝統・ 文化・くらしを理解し合っている。 姉妹校としての長期に亘る取組み、 教職員・保護者を含めた幅広い交 流が国際理解を高めている。
3	日本の俳句普及活動	文化	韓国俳句研究院 (郭 大基 院長)	韓国(慶州他) 日本 (12年)	日本固有の伝統文化に触発され、 私財を投じて韓国俳句研究院を創立 し、俳句講座・俳句大会・HP等を通じ て日韓の文化交流を促進。韓国の 中学・高校でも俳句の普及を図る。	安定した大学教授の職を辞して日本 の俳句の普及に尽力している。また 多様な韓国伝統文化を日本人学生 等に紹介し、日韓の文化交流促進 に大きな貢献をしている。
4	日韓子どもカササギ交流事業	教育、文化	サンブリッジ国際交流協会 (竹井 清 理事長)	福岡県柳川市 韓国釜山市 (10年)	子ども達に国際的視野を身につけさせる べく、お互いの顔が見える交流を実施。 小学生による学校訪問・授業参加や、 ホームステイ・研修旅行等を通じて体験 学習を行い、異質の文化を摂取・理解。	近い国ほど交流が難しいという考えの 下に、韓国との交流に踏み切った。 歴史問題等で多くの日韓交流が中断 する中、一度も途絶えることなく活動を 継続し、日韓友好に貢献している。

受賞事業リスト(2009年12月10日)

一般財団法人 高円宮記念日韓交流基金

番号	交流事業の名称	分野	受賞グループと代表者	活動地域	活動内容	推薦者等の評価
1	芳洲の里 青少年交流事業	文化	東アジア交流ハウス 雨森芳洲庵 (平井 茂彦 館長)	滋賀県 高月町 韓国全域	江戸時代に朝鮮との善隣外交に尽力した雨森芳洲のふるさとである滋賀県高月町を拠点とした地域交流で、中高生のホームステイ受入・派遣、町づくりフォーラムの開催等、多彩な活動を展開。	郷土の先人の志を引き継ぎ、わずか110戸の小さな農村で、館長を中心に地域を挙げた交流事業を展開し、中学生の積極的な取り組みを始め、全員参加の活動を継続。
2	日韓親善少年剣道交流会	スポーツ	伊万里市剣道少年団 (川久保 健児 剣道教士)	伊万里市 釜山市	大邱大学顧問の協力により20年前に釜山を訪問し、以来隔年で小中高生の剣道交流会を相互に開催し、武道を通じて少年の健全育成を目指す。ホームステイ等の交流も併せて実施。	20年間に亘り民間主導で継続されている自主的活動で、剣道を通じて人として守るべきマナーとエチケットの大切さを知り、体験学習と国際理解の場となっている。
3	川崎・富川高校生フォーラム ハナ交流会	教育、文化	川崎・富川高校生 フォーラム・ハナ (サポーター代表 風巻教諭)	川崎市 富川市	川崎市と富川市の高校生交流で、日本人・在日コリアン・韓国人の三者が一体となることを目指した活動を2000年から継続し、準備会議を経てインターネット会議、ホームステイ、フォーラム開催。	日本人・在日コリアン・韓国人が1つになるためのハナ交流会を通じて、生活文化の違いや共通点を学び、お互いが尊重できる環境づくりを果たしている。
4	日韓親善脳性麻痺障害者 サッカー大会	スポーツ	ゴムドゥリ・サラン会 (申 喆淳 会長)	韓国 (ソウル中心) 日本	脳性麻痺障害者による青少年サッカー交流。互いの文化に触れながら障害者の自立を目指し、サッカーを通じて友好を深め、パラリンピック同時出場が目標。	障害者サッカーという陽の当たらない分野で20年以上の長年に亘って活動を支援・継続し、障害者に勇気と希望を与えている。